



# 郷土のかぜ

仙台市民図書館 郷土資料コーナーから

## 小説家・泉鏡花の門人であった寺木定芳について

仙台市民図書館郷土資料担当 渡邊 啓市

今年2023年は小説家の泉鏡花の生誕150年にあたる年でしたが、これに関連してではないのですが、先日、泉鏡花の門人である寺木定芳（てらきさだよし又はていほう）という人物について調べてほしいとのレファレンスがありました。

この方は明治16年（1883年）仙台生まれ。東京専門学校（現在の早稲田大学）に進学後、泉鏡花の門人となり、その後、鏡花の勧めでアメリカに留学。帰国後は歯科医として活躍した人物だということです。また、鏡花の日常などを綴った『人、泉鏡花』（仙台市図書館未所蔵）という著書もあるのですが、歯科医の傍ら東京歯科医学院（現東京歯科大学）の教授を務めたり、麻雀の趣味が高じて、日本麻雀連盟の副総裁等に任ぜられるなど、作家としてだけでなく幅広く活躍していたとのことでした。

まず、寺木定芳の名前を郷土資料から探してみましたが、年代が一致しない資料が幾つか見つかりました。さらに『仙台人名大辞書』では「明治30年頃には没し」とあり、国立国会図書館デジタルコレクションの明治33年（1900年）2月22日付『官報』の中には「宮城殖林株式会社登記事項中取締役寺木定芳死亡に付き…」とあるなど、彼が活躍した年代にはその人物は亡くなっていたようなのです。調査依頼のあった寺木定芳とは同一人物ではないかもしれないと感じながらも調べを進めると、この方は旅館業を営んだり、土木請負人として寺木組を称して、主に宮城県内と東北の橋梁工事等を請け負うなど、地元の名士だったことが分かってきましたが、年代から察すると、どちらも同時期に仙台にいたことがあったのではないかと思われ、少し不思議な感じがしていました。

ところが、この疑問に対する答えが今年出版された『鏡花の家 泉鏡花生誕一五〇年記念』の中に載っていました。この書によると、定芳が旧制仙台第二中学校に在学中、父が急逝し家督相続して名前を本名であった甫から父の名である定芳を継いだと書かれています。鏡花の生誕150年を記念して出版されたこの本により、2人の寺木定芳が親子であったことを知ることができたのでした。



### <参考図書>

- 『鏡花の家 泉鏡花生誕一五〇年記念』 泉鏡花記念館／監修・編著 泉鏡花研究会／監修・編著（910 イス）
- 『仙台人名大辞書』 菊田定郷／著（S28 キ）
- 『南は北か 日本麻雀連盟雑史』 手塚晴雄／著（S04 テ）
- 『橋本店九十年の歩み』 橋本店（S51 サ）

## ■ある日のレファレンスから

いつも4階郷土資料コーナーを利用されている方から、勾当台公園市民広場と定禅寺通りを結ぶ「つなぎ横丁」の由来は何かというレファレンスを受けました。その方によると、区役所にもその由来を尋ねたが、不明だったそうなのです。

私自身、勉強不足で場所どころか「つなぎ横丁」という名前自体、仙台にあるということを知らなかったため、まず、インターネットでキーワード検索してみました。すると「仙台七夕」「仙台・青葉まつり」などのイベント告知や仙台市の広報物などでも「つなぎ横丁」の名称が使用されていることが分かりました。また、1991年（平成3年）8月以降の記事検索が可能な河北新報のデータベースで調べたところでは、1995年の記事で最初に使われていました。しかし「つなぎ横丁」の由来も、いつから使われたのかも詳細については、どの資料でも見つけることができず、現在もわからないままなのです。

そこで、読者の方をお願いしたいのですが「つなぎ横丁」の名前の由来や呼ばれるようになった時期について、もしご存じの方がいれば、ぜひ教えていただければと思います。

## ■新着図書紹介（郷土・参考資料コーナーに新しく入った図書）

### 『昭和39年の仙台地図帖「新産都市 仙台市大鑑」復刻版、東京オリンピックが開催された年の仙台』

有限会社イーピー風の時編集部／編 有限会社イーピー風の時編集部 **S29.9シ**

日本で初めてオリンピックが開催された1964年に発行された仙台の住宅地図が復刻。日本が高度経済成長を遂げた60年程前の仙台の街並みを楽しむことができます。

当時は、西公園に仙台市民図書館があり、移転した仙台市天文台や閉鎖されてしまった市営プールも確認できます。その他、宮城野原総合運動場には、現在も残る宮城球場（現：楽天モバイルパーク宮城）や陸上競技場（現：弘進ゴムアスリートパーク仙台）とともに移転したサッカー場や自転車競技場、南の隣接地には中央卸売市場などがあつたことなども載っています。

当時を知る方には懐かしく、知らない方でも新鮮な感覚でご覧いただけること請け合いです。



### 『杜のオーケストラ 仙台フィル50年の物語』

須永 誠／著 音楽之友社 **S764ス**

「仙フィル」の愛称で地元でも親しまれている仙台フィルハーモニー管弦楽団。

その仙台フィルが、2023年11月に創立50周年を迎えるのを記念して出版されたのがこの本です。今でこそ東北の音楽文化の中核を担うオーケストラとして、首都圏や海外公演、そして国際音楽コンクールなど世界にも活動の場を広げるまでになったのですが、創立時は理想の相違や楽団員の確保、資金繰りなど、さまざまな困難が立ちはだかっていたといいます。仙台フィルを立ち上げた人々は、それをどうやって乗り越えたのか。200人近い関係者への取材・確認を行い、50年にわたる仙台フィルの歴史と同時に、仙台の歩みを振り返る一冊となっています。



■編集後記■ 2024年2月3日（土）18:15から4階郷土資料コーナーのスペースを利用して、小林直之氏、川元茂氏、土方正志氏の仙台の編集者3人によるライブラリーアフターアワーズ「オヤジ編集者ブックトーク郷土の作家のおすすめ本」（定員30名）を開催します。仙台ゆかりの作家の作品の中からおすすめ本を紹介していきます。申し込み方法については館内チラシや「仙台市政だより1月号」をご覧ください。

発行：仙台市民図書館 郷土・参考資料コーナー

所在地：仙台市青葉区春日町2-1 せんだいメディアテーク内 TEL:022-261-1585